

第3部

創業100周年

創業100年を迎えた2020年を中心に、
大阪市立中央図書館のネーミングライツ取得など、
社内外でさまざまな事業を実施した。

スローガン
「愛される会社」になろう。



ロゴマークの商標登録証



小名浜営業所(福島)では、花壇に看板のように設置。道行く人に当社の思いを伝えている



大阪メトロ大阪港駅に掲示した広告

記念ポスターを掲示

2019(令和元)年9月から、本社最寄り大阪メトロ大阪港駅をはじめ、全国各地の営業所でも掲示して地域にPRしている。



タツミ ラウンジ前に掲示されている辰巳商会のパネル。当社の事業内容を紹介している

神戸大学施設のネーミングライツを取得

2019(平成31)年2月、神戸大学・深江キャンパス内施設のネーミングライツを取得し、「TATSUMI Lounge(タツミラウンジ)」と命名。同施設は海事科学研究科2号館の学生フリールームで、入り口に愛称ロゴと辰巳商会の紹介パネルを掲示した。



TATSUMI Lounge(タツミ ラウンジ)

社是 勤勉にして節約

基本理念

1. 安全はすべてに優先する
2. お得意先への報恩感謝
3. 従業員の福祉の向上
4. 地域社会への貢献

社是の揮毫

創業100周年を記念して、住吉大社の高井道弘宮司が当社の社是、基本理念を揮毫した。

港住吉神社に太鼓蔵を寄贈

2017(平成29)年7月、港住吉神社に太鼓や神輿を保管する太鼓蔵を新築し、寄贈した。夏祭り前に子どもたちが中で太鼓の練習をできるようにとクーラーも設置。創業100周年記念事業の一環として贈る予定を「築港奉遷百周年記念大祭」に



新築された太鼓蔵

合わせて早めたものだった。

辰巳商会 中央図書館



大阪市立中央図書館のネーミングライツを取得

大阪市西区の大阪市立中央図書館のネーミングライツを2019(令和元)年9月に取得し、辰巳商会中央図書館と命名。2020年3月には児童向け学習図書737冊を寄贈した。

創業100周年記念式典を挙行

2020(令和2)年9月28日、本社で創業100周年記念式典を執り行った。新型コロナウイルス感染拡大で記念パーティーは中止し、式典参加者は例年の約300人を25人に絞った。溝江輝美会長は式辞で「コロナが終息し、経済が回復することを願うばかり」と述べた。



創業100周年記念式典で式辞を述べる溝江輝美会長

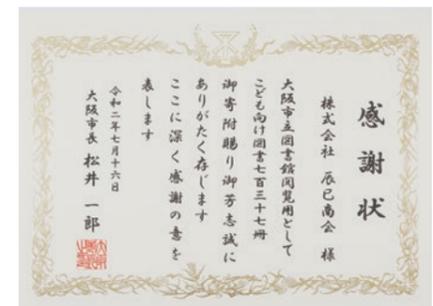


100周年を祝う御神楽奉奏で巫女が舞った

中央図書館ネーミングライツ協定締結式



2019年9月の協定締結式。西豊樹社長、右隣が三木信夫図書館長=毎日新聞社提供



大阪市からの感謝状

第4部

辰巳商会

いま・むかし 本社事務所



築港北海岸通時代の事務所(後ろの建物は住友倉庫)

1920(大正9)年9月
大阪・築港(創業の地)



築港北海岸通倉庫群。北海岸通の住友倉庫が所有する長屋の貸事務所の一室で創業した=住友倉庫提供



空襲による類焼を免れた港区二条通の本社建物(1948年撮影)
=国土地理院提供



現在の築港周辺、ほぼ中央に辰巳商会ビルが見える=大阪市提供

1947(昭和22)年12月～
江戸堀



本社事務所の前に路面電車の線路が見える



営業部。左はのちの社長、藤堂幾蔵と思われる



江戸堀に本社事務所があったころ、
縦横に堀があった
最新大阪全図(1943年)
=国際日本文化研究センター所蔵



社員食堂

1960(昭和35)年10月～
江戸堀ビル



ビル壁面に社章と「辰巳商会」の
文字が見える

1965(昭和40)年3月～
辰巳ビル



大阪市西区に辰巳興業が建設したビルの2階
と3階に入居した

1985(昭和60)年9月～現在
辰巳商会ビル



竣工当時の辰巳商会ビル。現在、海遊館や天保山マーケットプレイスのある辺りに三菱倉庫の上屋が並んでいる。奥は安治川で、岸壁には川崎汽船の貨物船が見える

本社事務所所在地の変遷

- ① 1920(大正9)年 9月、大阪市西区北海岸通13番地(現・港区海岸通1丁目4)で創業
- ② 1934(昭和9)年 7月、大阪市港区二条通4丁目(現・港区築港4丁目)に移転
- ③ 1945(昭和20)年 7月、大阪市西区土佐堀船町の興亜火災ビルに移転
- ④ 1945(昭和20)年 9月、大阪市東区横堀2丁目都菊ビルに移転
- ⑤ 1947(昭和22)年12月、大阪市西区江戸堀北通1丁目1番1号に新築、移転
- ⑥ 1960(昭和35)年10月、大阪市西区江戸堀北通2丁目江戸堀ビルに移転
- ⑦ 1965(昭和40)年 3月、大阪市西区鞠1丁目1番1号に辰巳ビルに移転
- ⑧ 1985(昭和60)年 9月、大阪市港区築港4丁目1番1号に辰巳商会ビル新築、移転



車両

一般貨物車



1970年代と思われる

タンクローリー



1970(昭和45)年ごろ



1980(昭和55)年ごろ



桜島車庫=1991(平成3)年



桜島車庫=2020(令和2)年

第一辰巳丸

初代

1931(昭和6)年進水
 硫酸船(木造タンクはしけ)
 八代の大日本人造肥料鏡工場より大牟田の電気化学工業まで薄硫酸を輸送した。

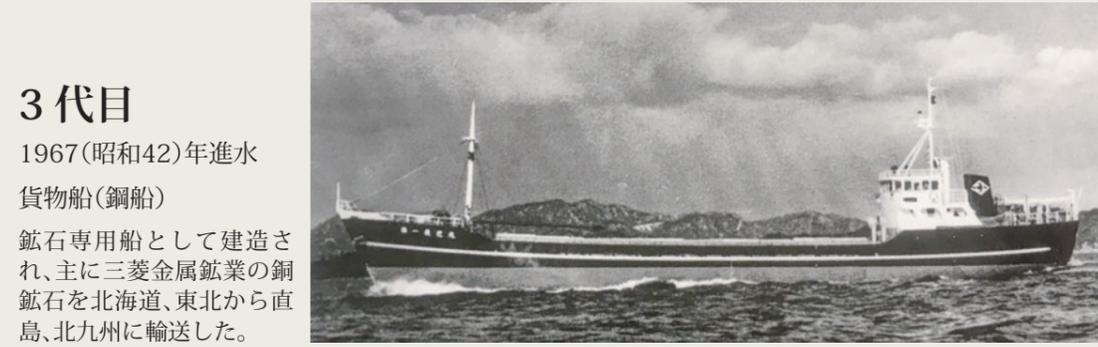


(模型)



2代目

1948(昭和23)年進水
 セメント船(鋼船)
 1948年、興洋海運の第一興洋丸として進水。1953年、第一辰巳丸と改名。三井造船が建造した三島型の船だった。後にセメントタンカーに改造した。



3代目

1967(昭和42)年進水
 貨物船(鋼船)
 鉱石専用船として建造され、主に三菱金属鉱業の銅鉱石を北海道、東北から直島、北九州に輸送した。



4代目

2018(平成30)年進水
 セメント船(鋼船)
 1992年に進水した三菱マテリアル専用のセメント船、辰巳丸の代替。46年ぶりに第一辰巳丸の名前が復活した。



元旦恒例の港住吉神社参拝で法被姿の従業員らと記念撮影する四宮忠蔵(右端)。左端はのちの社長、太田誠三郎。法被の男性(左から2番目)の裾には辰巳商會の「辰」と「會」が入る=1935(昭和10)年

制服
作業服



作業者の法被の背中に「C.S.」マークが見える。輸入小麦の荷役中と思われる=三突C号倉庫前で、1955年ごろ

1954(昭和29)年



当時使用していた看板

初めて男性に制服(ジャンパー)を支給。江戸堀の本社事務所前で1月8日撮影。入口には松飾が見える。最後列の男性は四宮忠蔵の長男で後に会長となる四宮誠祐



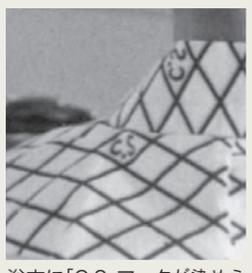
1985(昭和60)年ごろ 京町堀の辰巳ビルで

1997(平成9)年(夏服)

2001(平成13)年

2020(令和2)年までの作業服と制服

浴衣



浴衣に「C.S.」マークが染められている



1958(昭和33)年7月16日の港まつり。写真②は浴衣を着て笑顔を見せる四宮忠蔵(中央)。写真①は築港事務所が入る天満屋ビル



編集を終えて

「一目でわかる社史をつくろう」という西豊樹社長のひと言から「辰巳商会100年のあゆみ」の制作は始まった。令和2年1月のことだった。物事を分かりやすく伝えることの重要性を説く西豊樹社長らしい発想である。社員はもちろんのこと、取引先の方々や社員の家族が楽しく学べる社史を届けることが我々の目標となった。折しも、当社の直近25年は海外進出の歴史でもある。日本語を解さない海外グループ会社の現地社員にも、写真で当社の歴史を伝えることができるのではないかと。思いついたのは、小学校の卒業アルバムのようなカラー写真をふんだんに使った社史。だが、アルバムを制作することを前提に写真を撮りためているわけではない。写真で社史を綴ることができるのであろうか。いろいろと構想を練った。

大正9年に「海陸貨物運輸業・辰巳商会」として出発した当社は、大阪港内のはしけ運送で顧客の信頼を得、内航海運業の世界へ道を切り開き、戦後には倉庫業・貨物自動車運送事業などに分野を広げた。これらを編年体で綴るのではなく、事業ごとの歴史を写真主体で辿ることにした。

当社では、数年前に所蔵する膨大な写真・ネガを全てデジタル化したところであった。当社の先人達が残した貴重な大正・昭和初期の写真も少なからず保管されていた。デジタルカメラの時代になってからは画像点数が膨大。その一方で、個人が手軽にデジタルカメラで撮影する時代になったため、会社として組織的に写真を収集しなくなった。所蔵する近年のデジタル画像には偏りがあり、手当たり次第にデジタル画像を保存していないか声をかけた。

数万点の写真を全て見た上で、撮影時期・場所を特定する作業は難航を極めた。背景に映り込んでいる建築物と国土地理院が撮影した航空写真を何度も見比べた。分かった写真は写真整理ソフトウェアを活用し、営業所・時代ごとに整理していった。顔検出と顔認識技術により先人達の顔を検出、作業時間の短縮を図った。社内の写真に加え、国立国会図書館、大阪府立図書館や辰巳商会中央図書館(大阪市立中央図書館)が所蔵する古地図や官報などの画像も活用した。三菱マテリアル、荒川化学工業などの得意先からも貴重な写真が提供された。

写真に添える文章は簡潔を心掛けたが、想像以上に要約作業に時間を要した。専門用語を避けるように心掛け、何度も原稿の精査を行った。これまで協力いただいた社内外の各位に謝意を表すとともに、毎日新聞社の石村綾子様、高速オフセットの雑賀永将様を始めとする両社のスタッフに深く感謝する次第である。装幀は、西豊樹社長の着想に基づいた。

令和3年9月

辰巳商会100年のあゆみ編集担当一同

社長室室長	白石 徹
総務部次長	白瀬 正治
社長室	宮崎洋央子

●主要参考文献

『三十年を語る』 株式会社辰巳商会
『四十年の歩み』 株式会社辰巳商会
『創業五十年史』 株式会社辰巳商会
『創業七十五年史』 株式会社辰巳商会
『創業百年史』 株式会社辰巳商会
『船の歴史』 株式会社辰巳商会
『辰巳しんぶん』 昭和24年1月15日号～令和2年9月1日号 株式会社辰巳商会
『追想 四宮忠蔵』 株式会社辰巳商会
『追想 太田誠三郎』 株式会社辰巳商会
『帝国銀行会社要録』 大正9年、昭和18年 帝国興信所
『人事興信録』 昭和56年 人事興信所
『大衆人事録』 昭和31年 帝国探偵社
『京阪神職業別電話名簿』 昭和9年 京阪神職業別電話名簿編纂所
『三菱マテリアル150年史』 三菱マテリアル株式会社
『荒川林産百年史』 荒川林産工業株式会社
『荒川化学百二十年史』 荒川化学工業株式会社
『八十年史』 日産化学工業株式会社
『百二十年史』 日産化学工業株式会社
『住友倉庫百年史』 株式会社住友倉庫
『ファイマテック20年の歩み』 株式会社ファイマテック
『続日本ソーダ工業史』 日本ソーダ工業会
『日本港湾運送事業史』 日本港運協会
『大阪築港100年』 上・中・下 大阪市港湾局
『大阪港史』 大阪市港湾局
『大阪港工事誌』 大阪市港湾局
『港区史』 大阪市港区役所
『大阪港 OSAKAPORT』 1979年～2020年 大阪港振興協会
『おかげさまで20年!!』 株式会社セントラル・コールド・ストレージ
『大阪港振興株式会社50年のあゆみ』 大阪港振興株式会社
『鐘鳴漏尽』 下田深一
『大阪港木材倉庫四十年史』 大阪港木材倉庫株式会社
『船の科学』(1988.1) 神原海洋開発KK
『日本海事協会会誌』(No.203,1988) 日本海事協会
『関西化成品輸送の歩み』 関西化成品輸送株式会社
『創立70周年記念誌 遙かなる海路』 国華産業株式会社
『内航辞典』 内航ジャーナル
『年表 昭和・平成史 新版』 中村正則・森武磨 岩波書店
新版『昭和史』 遠山茂樹・今井清一・藤原彰 岩波新書

●資料提供

大阪市港湾局
大阪港振興協会
毎日新聞社

●企画・編集・制作協力(50音順)

毎日新聞社 大阪事業本部
相原洋、石村綾子、篠田直哉、田中将隆、中尾卓司、根本毅、山本直 (以上、毎日新聞社)
大橋祥司、雑賀永将、田頭千夏、野田直樹 (以上、高速オフセット)

辰巳商会100年のあゆみ

令和3年9月発行

発行者 株式会社辰巳商会

大阪市港区築港4丁目1番1号

印刷 株式会社高速オフセット

大阪市北区梅田3丁目4番5号
